



幸せごはん

～わが家の台所から～



思い出の父のスパサラ

なかむらさやか
中村彩夏さん (下小谷)

幼い頃、包丁なんて握ったことがなかった父が台所に立ち、私たちきょうだいに作ってくれたのが、魚肉ソーセージが入ったスパゲティサラダ。なぜか缶詰のミカンも入っていて「彩りに入れてみた」と笑った父のドヤ顔を覚えています。

今ではわが家の定番メニューとなった父のスパサラ。ハムではなく、魚肉ソーセージじゃなきゃ思い出の味になりません。

子どもたちも大好きで、大量に作ってもすぐなくなります。近いうち、父に作って食べさせようかな。



みずき 3男の瑞輝君(3)を抱っこする彩夏さんと、長女の愛莉珠さん(11)

レシピ

【材料】

乾麺のスパゲティ、魚肉ソーセージ(好きなだけ)、キュウリ、タマネギ、ミカンの缶詰(好きなだけ)、ミニトマト、レタス、塩こしょう、マヨネーズ

【作り方】

- ①乾麺のスパゲティを半分の長さに割り、沸騰したお湯に塩を加えてゆでる。
- ②魚肉ソーセージは食べやすい大きさに切る。
- ③キュウリは薄くスライス、タマネギは千切りにしていずれも塩もみして水分を絞る。
- ④ボウルに茹でたスパゲティ、魚肉ソーセージ、キュウリ、タマネギ、ミカンを混ぜ合わせ、塩こしょうをしてマヨネーズと和える。
- ⑤皿にレタスをおき④を盛り付けたらミニトマトを添えて完成。

わがまち散歩



府内権現神社の近くに武家屋敷のような玄関を構えるお宅を発見。表札には尺八の師範とあります。主は94歳になる宮地啓司さん。宮地さんは尺八奏者に授与される最高位の「竹師」の資格を持ち、「宮地峯山」として、長年尺八演奏に携わってきました。



長年、尺八演奏に携わってきた宮地さん

尺八に魅了されて

なく、自衛官として赴任した北海道で尺八の先生に師事しました。耳が慣れてきたからか、これでも筋がよかったですよ」と振り返ります。

数年前まで各施設におもむき、利用者の前で演奏を披露していた宮地さんですが「もう年だから、以前のような音は出ないね」と言いつつも尺八を手にとった途端、目の輝きが



応接間に飾ってあった宮地さん愛用の尺八

変わります。

「たまにはこうして、笛を口に当ててみるのもいいね」と言って、ニツコリと元気な笑顔を見せました。

散歩の終わりに

毎年夏になると秋津川に架かる広崎橋に、地元の人たちが編んだわら細工の「ガラツパ」というお供え物がかけられます。子どもたちが、水の事故に遭わないようにとの願いを込めたお守りです。

太陽が西の空に傾き始める夕刻、秋津川を渡る風がガラツパのお飾りを揺らします。そして、暦は秋を告げます。



着物形をモチーフにして華やかな廣美さんの作品

町の新たなフォトスタジオ

九州自動車道の西側に広がる、広崎5町内の新興住宅地の一角にこの秋、フォトスタジオ「ブライズ」が



穏やかな日々の暮らしを満喫しているという廣美さん



孫娘のためにしつらえたドレスをデザインした作品

を担当しているそうです。NHKの「きょうの料理」を視聴しつつ、レシピ本通りに作る腕前もパワーアップしたとか。結婚以来、ケンカをしたことがないという二人。「夫との出会いは宝くじに当たったようなもの」と幸せそうな廣美さん。うらやましい限りです。ごちそうさまっ。



今秋オープン予定のフォトスタジオ「ブライズ」

オープンします。主宰するのはフォトグラファターの伊藤健一さんです。長年、熊本を拠点に福岡などでブライダル演出や撮影を手掛けてきた伊藤さんは、「これまで数多くのカットブルや、家族写真、記念写真など、幸せなシーンをレンズに収めてきました」と話します。

特にブライダルフォトは、個性的な演出を求めるカップルも多く、さざ波をバックに海の中で撮影したり、ファンタジックな森の中をロケ地にするなど、伊藤さんならではの感性が光ります。

「こうして益城町にご縁をいただき、皆さんにお役に立てるフォトスタジオでありたいと思います」と話す伊藤さん。出張撮影、発表会、アルバム制作など、依頼者の心に寄り添う作品を届けてくれます。



わがまちMAP
広崎



「地域のお役に立ちたい」と話す伊藤さん



伊藤さんが制作した個性的なフォトアルバム